

魔法のWallet プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：中谷真菜美 所属：千葉市立園生小学校 記録日：令和2年2月21日

キーワード：コミュニケーション、自信、不安

【対象児の情報】

- ・ 学年：小学校特別支援学級(知的)3年
- ・ 障害名：知的障がい
- ・ 障害と困難の内容
 - <言語面> 言いたいことが相手に伝わらなかつたり、言われていることの意味がわからなかつたりする。
 - <情緒面> こだわりや場見知り、人見知りがある。

【活動目的】

- ・ 当初のねらい
 - <言語面> (受信) 自分の気持ちや考え、友達の言葉や考えを教師と整理し、理解することができる。
 - (発信) 5W1Hを整理した言葉で相手に伝えてみる可以尝试。
 - <情緒面> こだわりを軽減し、初めてのことに挑戦してみようとする。
- ・ 実施期間 令和元年5月15日～2月10日
- ・ 実施者 中谷真菜美
- ・ 実施者と対象児の関係 担任

【活動内容と対象児の変化】

対象児の事前の状況

<言語面>

- ・ 日常で使用する言語は概ね理解し、発言することもできるが、5W1Hの理解が文字・言語ともに曖昧。
- ・ 家族、担任、級友(3人)と限られた人しか話そうとしない。
- ・ 兄弟のことを自分のこととして話す。主語がなく話すので、本人と聞き手にはずれが生じることもある。
- ・ 級友が本児の話に注目しない。本児と級友、両者の言葉の捉えの甘さから誤解が生じたり、会話上での満足感が両者に足りなかつたりする。そのことが原因でケンカに発展する。

<情緒面>

- ・ こだわりが強く、一度本人が決めたことはなかなか修正がきかないが、担任の言うことは守れるようになった。
- ・ 初めて経験すること(場所や人)に強い拒絶感があり、不安感も強い。場所見知り、人見知りがある。
- ・ 一度「できない」、「やりたくない」と思うと、事前に出来ていたことやどんな簡単な事でも手が付けられなくなつたり、全力で拒否したりする。「できない」と本児が感じるきっかけは、友達より行動が遅れていることに本児が気付いた時である。また「やりたくない」と言う場面は人前で話す場面であり、初めての場所や人に関係している。

活動の具体的内容

<言語面> 5W1Hの理解を補い、「伝えたいこと」の整理をする。

(受信) 5W1Hの理解を促すアプリゲームを通して5W1Hの観点に気付けるようにする。(①)

(発信) 朝の会で「今日のニュース」を調べる活動を通して、考えや感想を伝えようとする。(②)

<情緒面> 「話すこと」への不安な気持ちの軽減方法を知り、「伝えたいこと」を発信しようとする。(③)

活動の具体的内容①に関する取り組み（言語面・受信）

友達の「いつ行ったの？」との問いに場所を答えるなど、5W1Hの不定着からくる言葉のやりとりでの誤解やそれによるトラブルがあった。また、主語がなく話したり主語の混乱が会話の中に見られたりした。例えば「(お兄ちゃん)卓球出来るよ。日曜日、新しいラケット買いに行った」と本児が話すと、友達は「(本児のことだと思い)卓球できないじゃん！日曜日は家にいたって言ったばかりなのに。嘘つき。」と言い争いになることが多かった。5W1Hの間違ひは意味が通じないことを客観的に楽しみながら理解するため、国語のグループ別学習（3人）の導入でゲームを取り入れることにした。（期間：5、6月 10分/回 全11回）



「いつどこだれなに」のアプリゲームを通して5W1Hの観点に楽しみながら気付けるようにしよう

5W1Hの理解がある友達が入力し、それを見聞きする中で自然と言葉の概念が定着し始めた。言葉のシャッフル操作をし、誤変換を起こすと「ふふ、場所変だね」と言い、意味が繋がらない文の間違ひに気付き始めた。

1人目

When
今日

Where
学校で

Who
うーちゃんが

What
リコーダーした

次の人へ

いつ？
どこ？
だれ？
なに？

いつどこだれなに

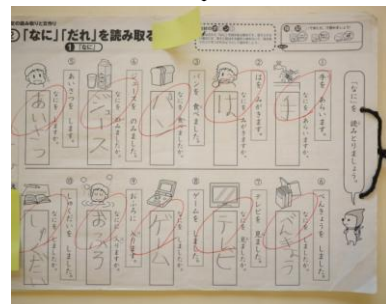
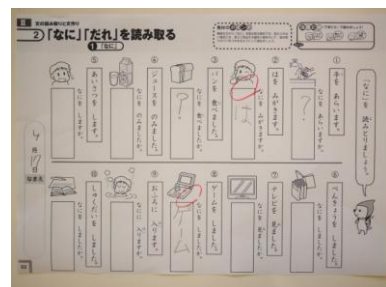
3人がそれぞれ入力し、最後の人がシャッフルを押すと「来年、動物園で先生がリコーダーした」などおかしな文が作成された。

対象児の事後の変化

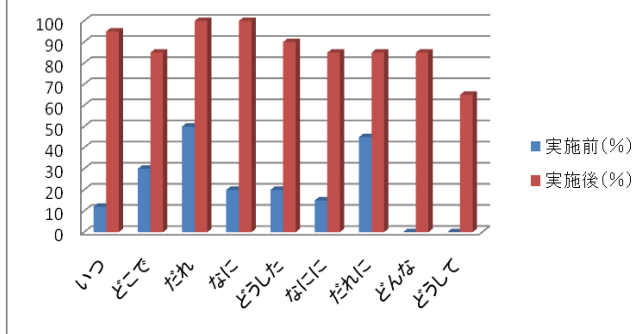
～友達との言葉でのコミュニケーションがスムーズになる～

5W1Hの理解が促され、プリント学習でも正答率で大きな変化（表1）が見取れた。（写真：特別支援の国語教材初級編（学研）の実施前後）

活動前は主語の混乱（兄の経験を自分事として言う）が会話の中に見られていたが、夏以降はそのような発言は聞かれなくなった。また、活動前は5W1Hの理解の不定着が原因と思われる友人との言い争いが一日一回はあったが、夏以降は月2回程度に減少している。（表2）しかし、5W1Hの理解の不定着が原因と思われる友人との言い争いが減少しているにもかかわらず、トラブルの総件数はまだ残っている。これは、自分の伝えたいことが友達に伝わるようになり、4月にはなかった「仕切りたい」との思いから友達に指示出しをするようになったことに起因している。

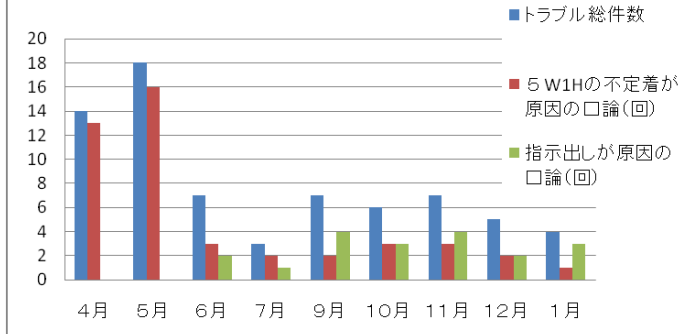


アプリの実施前(後)の正答率の変化



(表1)

友達とのトラブルの変化



(表2)

活動の具体的内容②に関する取り組み（言語面・発信）

友達の発言を真似てみたり、「同じ」と言ったりはするが、自分の考えや発言に自信がないのか意見や感想を求められると固まってしまう。



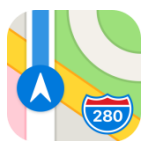
朝の会で「今日のニュース」を調べる活動を通して、考えや感想を伝えることに慣れよう。

朝の会における内容の中に「今日のニュース」を調べる活動を組み入れた（期間：6～1月）。導入当初、発表原稿は「言えない」と作成を拒否し、名前しか書かなかった。また、自席での発言はあるものの、人前での発表になると固まってしまう「忘れた」と言って自席に戻っていた。しかし、活動に見通しがもて、活動中に自分の役割を設けられると徐々に取り組むようになっていった。

NHKの「NEWS WEB EASY」サイトのニュースを音声出力し、疑問に思った言葉を調べる活動を学級全体で実施した。その活動の中で「マップ」や「Webリーダー」のアプリの使用担当係に任命すると、「マップ」では音声入力を進んで行うようになり、「Webリーダー」では電子音声の聞き取りに慣れていった。

対象児の事後の変化 ～友達から認められる経験が発表への自信につながっていく～

「マップ」の音声入力、車での到着時間を調べることが教師の介助のもとできるようになり、それを発表する時間を楽しみにするようになった。また、被害を受けた台風のニュースは熱心に調べ、6年生から「調べ名人だね」と褒めてもらうことができ、「名人って言ってもらえた」ととても喜んでいた。この時の発表での成功体験や友達からの拍手をきっかけに少しずつ感想を記入することができるようになった。（右写真）



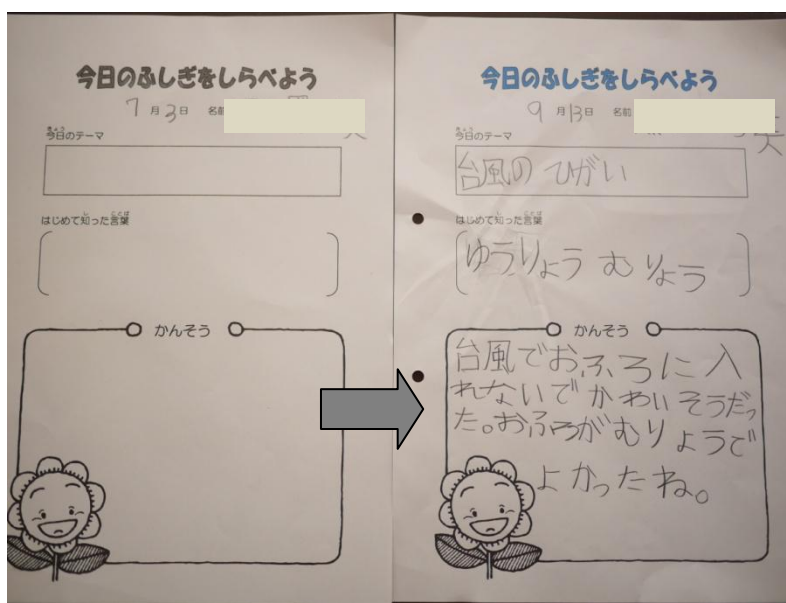
マップ



Webリーダー



知らない言葉を調べる様子



「今日のニュース」における感想の変化

「今日のニュース」への取り組みの変化

	ニュースの関心・内容理解	調べ学習の様子	発表参加	感想の記入状況
6月	△（天気以外に関心なし）	×（知らない言葉があることを恥ずかしがる）	△（教師と）	×（白紙）
7月	○（話題の5W1Hを理解）	△（教師と音声入力をするようになる）	△（教師と）	×（名前やテーマは書く）
9月	○（台風に関心を示す）	○（自分から音声入力をする）	○（一人で）	○（自分視点の感想記入）
10月	◎（興味のある内容を選ぶ）	◎（自分からアプリを起動し音声入力をする）	◎（自分から）	○（自分視点の感想記入）
11月	◎（興味のある内容を選ぶ）	◎（自分からアプリを起動し音声入力をする）	◎（自分から）	◎（相手の立場を考える）

活動の具体的内容③に関する取り組み（情緒面）

発表時、手は挙げるが指名されると「やっばいい」と言い発言までには至らなかった。しかし、「伝えたい」との思いはあり、授業後「何で言えなかったんだろう」と残念がる様子もあった。セリフを準備し練習で成功していても本番になると「やっば無理…」と言い、教師が代弁しても残念がることがあった。



「話すこと」への不安な気持ちの軽減方法を知り、「伝えたいこと」を発信しよう。

「話すこと」ができなくなってしまった場合への心理面への配慮として、「えこみゅ」を用いた音声表出の代替手段があることを示し、情緒の安定が図れるようにした。文としてまとめる、順序立てて話すのが難しい本児であるが、「えこみゅ」は写真毎に音声を入れられ、それらを組み替え、発表順に整えられる。また、途中の発表で言葉に詰まってもその音声だけを出力できる。「話せなくても何とかなる」（事前に入力しておいた「えこみゅ」が自分の声でしゃべる）と納得が得られると、今までのセリフ用紙の準備に追加して「えこみゅ」も準備するようになった。使用に慣れると発表が増え、アプリの準備の頻度は減少したが、緊張した時の思いを伝えられるようにしたいと「こわい」などの表示を用意するようになった。



司会などの長文でない場合は、写真や絵の用意を省き、「ボイスレコーダー」の使用に替え、自分の発言を聞き「言えている？」と教師に確認を求め、自分自身で音声を聞き納得を得るようになっていった。



ボイスレコーダー

対象児の事後の変化

～初めてのことでも挑戦してみたいとの気持ちが高まる～



6月：グループ内での発表



7月：学級内での司会



9月：全校集会での発表

「話すこと」への不安な気持ちの軽減方法を知ったことで、様々な場面での「伝えたいこと」や「話したいこと」への発信につながっていった。少人数のグループでの発表（6月）から、学級内（7月）、全校（9月）と活動の幅を広げ、2月には1年前に憧れていたが出来なかった、近隣校特別支援学級交流会での司会を成功させることができた。この交流会は普段の体育館配置や人の数と異なり、本児の課題である「場見知り、人見知り」が発生しやすい状況であったため、この成功をととても喜んでいった。



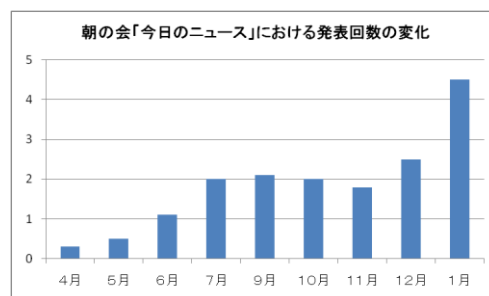
2月：近隣校特別支援学級交流会での司会

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき：5W1Hの理解の定着が促されたことは「伝えること」への意欲につながり、不安感の軽減方法を知ったことは「伝えること」への自信になったのではないか。

・エビデンス（具体的数値など）

活動前は初めて経験すること(場所や人)に強い拒絶感があり、「話すこと」への不安感が強く、失敗経験から新しいことに挑戦しなかったが、成功体験の積み重ねること、活動後には挑戦への気持ちが高まり、発表の場をグループ、学級、全校、交流会（他校を含む）へと広げることができた。この意欲の高まりは、朝の会における発表回数の変化からも裏付けられていると考えられる。



・その他エピソード①

12月に行われた「げんきキャンプ（市内特別支援学級合同の宿泊行事）」では、欠席者に変わり急遽代役の発表を立候補した。初めての経験や場所に強い不安感が変わらずにあったが、自ら「ボイスレコーダー」のアプリを使用し、「大丈夫、できている」と何度も自分で言いたいセリフを確認して発表に挑んだ。



・その他エピソード②

国語科の「説明文」の単元の中で、情報を羅列するのではなく、テーマを絞り詳しく説明できるようになった様子が見取れた。昨年度は思ったことを主語なく書き、教師が主語の付け足しと文の整理が必要だったが、今年度は、12月までの実践があったからか、自分からテーマを絞り、詳しく説明できた。右の写真は「今日の給食」をテーマに3人組でそれぞれ説明の担当文を決め、動画に音声を追加編集している一場面である。「伝えるぞ」と言い、意欲的に取り組んだ。



VivaVideo



動画編集の画面（左）とその原稿（右）

・その他エピソード③

道徳の授業中、本児だけ考えが発言できなかった。授業後、「えこみゅ」を用いて自ら考えの整理を行い、後日発表をしようとしたが、初めての経験だったからか尻込みしてしまった。本児は自信がない場面では常に正解を教師に聞くが、道徳は司会のセリフのように正解はなく、自分の考えを言う経験はまだほとんどなかったからだろう。しかし、1年前は一度嫌だと思ったことは全力で拒否していたが、友達に励まされ何とか音声出力し、自分が考えたことを伝えることができた。



えこみゅ



考えの整理（左）



発表直前（右）

本児にとってICTの活用は、言葉の理解を補い、不安感の軽減方法として与えられるものであった。しかし、約1年間の活動の中で、5W1Hの概念を習得して想いを伝え、自分の不安感に気付いて「自らの感情コントロール」主体的に行うツールに変化していったと考えられる。今後は、不安な場面を教師が先に考えるだけでなく自分から考えていくこと、自分の考えをより発信できるよう経験の場の設定が大切になると思われる。

